

平成27年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要

林産部門

大径のほだ木を利用した肉厚で風味の良い高品質なしいたけ生産

○氏名又は名称 山㟢 保・山㟢 佳代

○所 在 地 三重県多気郡多気町

○出 品 財 産物（乾しいたけ）

○受賞理由

・地域の概要

松阪市は、三重県のほぼ中央に位置し、総面積の約7割を森林が占め、豊富な農林水産物が生産されている。その中で、しいたけ栽培は江戸時代からの歴史を持っており、原木となるクヌギ、コナラ等の広葉樹の森林面積は約9,700haである。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

山㟢夫妻は昭和46年から家業を継ぎ、しいたけ栽培を専業化し、20箇所に点在していたほだ場を2箇所に集約するとともに、生産規模を当初の4倍の約4,000kgに拡大し、「作業は早く確実に！」をモットーに効率的な作業に取り組んでいる。ほだ木は近隣のクヌギ及びコナラを125,000本使用しており、乾しいたけ生産が約9割を占めている。平成26年の販売収入は、直接販売を主体に1,620万円となった。

・受賞者の特色

(1) 高品質なしいたけの生産

ほだ木には直径25センチ程度以上の大径のクヌギ及びコナラを使用することにより、肉厚で風味の良い良質のしいたけ生産を行っている。

(2) 環境への配慮

近隣の一般消費者を対象としたほだ場の見学やしいたけの採取体験、廃ほだ木をブルトムシの飼育材料として有効活用するなど、原木しいたけ栽培の理解の促進や環境配慮に取り組んでいる。

(3) 地域への貢献

しいたけを使用した商品開発等の6次産業化や、荒廃山林の購入・管理による地域の広葉樹林の整備等を進めるなど、地域への波及効果は大きい。

・普及性と今後の発展方向

原木しいたけの理解の促進や環境への配慮等地域の先導的役割を果たしており、また、直接販売による固定客の増加や6次産業化や、輸出も視野に入れた規模拡大を計画する等、地域への波及効果や今後の発展性は非常に高いものとなっている。